

【委員からの主な意見】

1. 宿泊税活用施策案について

（1）施策1 戦略的な観光地域づくり

- 施策1「戦略的な観光地域づくり」については、説明のとおりと考える。これまでの見るだけの観光から、来訪者の記憶に深く残る体験、価値の想像へと転換を図っていききたい。

伊豆沼のねぐら入り、朝晩の農家さんと連携した収穫体験、文化庁の100年フードにも認定された郷土料理のはっと、仙台牛、環境保全米等、豊かな食文化をニッチな市場に投入して、ここでしか味わえない特別な体験の商品化に向けた重点的な支援をお願いできればと考えている。

（2）施策2 周遊性向上のための二次交通対策

- 宿泊事業者部会においても、二次交通が一番大きい問題としてあり、各委員から意見が出された。二次交通の面が充実していけば、より長く滞在していただけるお客様が増えるのではないかと考えている
- ライドシェアについては、活用に向けて可能性はあると考える。運輸局の基準では、送迎に関する部分の規制が緩和されたと聞いており、燃料費まではお客様から頂戴できるようだが、人件費も実際はかかる部分なので、整理が必要。検討のたたき台となるような基準を県で整備してもらえると、関係者と協力しながら実施体制を作っていけるのではないかと考えるので、是非検討を進めていただきたい。
- 二次交通については、観光客だけでなく、住民の方にとっても不便な状況にあるので、観光のためだけの交通だけではなく、住民、観光客も一緒に使える交通基盤の整備が、持続可能という観点からも必要になってくると思う。

（3）施策3 快適な旅行環境のための受入環境整備

- 平筒沼、南方千本桜、シーズン中はお客さんが大変多いが、昨年あたりからアメリカシロヒトリの被害が大きい。もし可能であれば、そういった施設管理、桜の維持管理にも宿泊税を活用できればいいと考える。
- 受け入れ体制や情報発信のための基本ベースが現状では弱いと感じており、登米市の観光協会の体制強化支援や、登米市観光HPのブラッシュアップについても、宿泊税を活用しながら対応していく必要がある。
- 地域に国内外のお客様を多く呼び込みたくても、地元の人材不足で観光の情報発信がなかなかできていない。例えば観光連盟やDMO、教育旅行で言えば教育旅行支援センターのような一時窓口を担っている組織があると思うが、その体制強化に注力していただくことで、当地域を目的に來ていただけるお客様も増えると思うので、是非検討願いたい。
- Wi-Fiについては、施設を出ると全く使えないという場所もあり、不便に感じることもある。インバウンドに備える必要がある。

- 観光ガイドの育成をお願いできればと思う。登米市には様々なコンテンツがあるが、新たにガイドとなっただけの人材がなかなかいない状況があるので、協力をいただきながら取り組んでいきたい。

（４）施策４ 効果的なプロモーションの展開

- 鳴子は全国でも屈指の温泉地である。泉質も良いし、全国３本や５本の指に入ると思う。草津温泉など他の温泉地は盛り上がっているので、PR不足があると思う。登米市としても同じ状況。宮城県は食も気候もとてもいい場所なので、オール宮城で効果的なPRをしていけるように頑張っていくべきと考える。
- 登米オルレ参加者の平均年齢は70歳くらい、シニア層に受けるコンテンツということで、トレッキングはシニア層のひとつの楽しみになっているという実感を持っている。様々なターゲット層があるが、年齢に合わせたプロモーションをこれからも行っていきたい。

２．圏域での施策活用イメージ

（１）施策１ 戦略的な観光地域づくり

- 日帰りのお客様が多いというデータがあるので、市内のナイトコンテンツを充実させて、少しでも多く滞在型が増えるよう工夫していくことが課題である。
- 伊豆沼エリアでは、早朝の渡り鳥の観察や、はすの観覧船運航を早朝から開始してもらい、咲き始めがみられるコンテンツとして売り出してみることも考えている。漁業体験など、ここでしかないコンテンツということで、PRしていきたい。また、登米市は農業が優秀なので、農業のバックヤードツアーとして、日本の食がなぜこんなにすごいのかという観点で巡れるような、少しマニアックではあるが興味のある方には受ける、というようなターゲット設定をしっかりと持ちながら集客をしていきたい。
- JRでは7月から毎週金曜に特急イブニングウェイを運行しており、石越には21:30に到着する。翌朝のマガン飛び立ち見学や日中観光への活用が期待できるため、宿泊事業者等と連携しつつPRを進めていきたい。
- 登米圏域の観光づくりでは、体験型コンテンツとして教育旅行のニーズが高い一方、受け入れ態勢が弱く、地域住民の理解促進も含め課題となっている。

（２）施策２ 周遊性向上のための二次交通対策

- 観光施設間を、時間や費用のロスなく効果的に繋ぐような路線がない状況にある。市内を多く回ってもらうためには、どこにどういう路線が必用か等、検証することも必要と考える。
- 4～5年前になるが、桜の時期に観光物産協会で観光バスを走らせていた時期があった。観光客も住民も利用しており、今まであったものがなくなるということは非常にマイナスなので、宿泊税を活用し、観光シーズンの週末だけでも試験運行するなどして、効果検証を試みるのも有効であるし、移動のニーズ調査も必要ではないかと考える。
- タクシー、バスの補助的なツールとして、電動キックボードや電動自転車を各観光ポイントや宿泊施設などに設置し、どこで借りても返しても良いというサービスがあってもいいと思う。

市または県で整備していただくことで、観光客の利便性が上がると考える。

- 二次交通については、数年前から色々議論されているが、全く進行していない。交通インフラとして東北自動車道、三陸道と広域的に活用できるものがあるので、話し合いの場を設けていくことも必要。
- 本市の観光客の移動手段は、97%が自家用車というデータも有り、長年の交通のボトルネックの解消が本市の最重要課題のひとつであると捉えている。市民生活の足の確保という観点の方が、どうしても登米市全体の施策の中では優先順位が高く、観光への活用という観点では取り組めていないのが実情であったため、宿泊税財源を活用し、くりこま高原駅を起点とした周遊観光、できれば季節限定型のシャトルバス等の運行等ができないかと考えている。